

鹿児島大学教育学部 同窓会会報

第12号

平成22年11月1日

発行

鹿児島大学教育学部
同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
電話099-285-7718



豊かな発想で飛躍の年に 第13回 同窓会総会

平成22年度第13回同窓会総会が8月7日、ジェイド・ガーデンパレスで14時から開かれた。

はじめに池之迫静男会長は「同窓会創設13年目。自主的な活動ができる時です。豊かな発想をもって飛躍の年としたい」と話し、次に現在の活動上の問題点「在学生への支援、特に就職支援等を学部例とどのように提携して推進するか」、「各学年から代表を5人以上選出すること」、「同窓会員のすべてに終身会費を納入していただくこと」を含めてあいさつした。

この後、松元兼俊名誉会長、島田俊秀顧問、武隈晃学部長

があいさつ。石神正明副会長が21年度の会務報告を行った。議長に福島嘉久理事を選出して協議へ。21年度決算報告は、竹之内則好会計担当が行い、平岡順義監事が監査報告して承認された。

22年度の事業計画案は、石神副会長が提案。事業は例年とほとんど変わらないが、特に本年は総会の後、同窓会初の講演会を実施し、引き続き懇親会を行うことを報告。22年度予算案(4,146,530円)の提案は竹之内会計担当が行い、すべて承認された。

質疑応答では、人材派遣事業の実施状況と内容について質問があり、会長が「昨年度は4件、本年度は6件の申請があるが、まだ十分に周知されてないので、活用をすすめてほしい」と回答。記念事業の積立金に関する事業内容の質問に対しても「現在は確かな計画は立てていないので、

実り豊かな時期を迎え、各地で豊年祭りや運動会が子供からお年寄りまで一堂に会し、行われています。久しぶりに郷里に帰って参加した人もおり、交流の輪が広がっていることは誠に喜ばしいことと思います。



交流の輪の広がりを

同窓会副会長 石神 正明

喜寿を迎えた私どもは昨年、同窓会を開催し、母校の小、中学校合同の運動会に参加しての交流や菩提寺での供養、懇親会を行いました。まさに「朋あり、遠方より来たる、また楽しからずや」で旧交を温めるこ

同窓会が結成されました。この会は、本学部の卒業生、修了生、それに進会員として本学部学生、特別会員の本学部教職員で構成する大規模なものです。それから12年。会員相互の親睦と共に、母校の発展と教

育の振興を図ることを目的に活動の輪を広げました。そこでは、組織の拡充や後継者育成、人材活用事業等を手掛け、同窓会が単なる親睦だけに終わらず、母校や地域に少しでも貢献できればとの思いも込めて進められてきました。

特に後継者育成事業の一環として、平成14年に「鹿児島島の教育を語る会」が始まりました。学生、学部教職員、卒業生の連携の下に一堂に会して行われ、各専修代表の学生の新鮮な感覚での発表、そして卒業生代表の貴重な経験を踏まえた発表、その発表を受けての討論が行われてきました。平成19年の第6回からは、

今後、会員の英知を集めて企画したい」と答えた。次に、「支部・学年・教科同窓会運営補助」の質問に「人材活用事業の補助と同じように、一同窓会当たり50000円程度を補助したい。申請については今後お知らせする」と会長が答えた。

役員選任では、出水支部世話役で長年尽力された宮田林志氏に代わって、31年度卒の竹宮鐵郎氏を選任。学年代表として31年卒の福迫徹、34年卒の石塚勝郎、鹿島洋記、小島孝夫、徳永俊吉、長野純二の各氏が選ばれた。

いさつをして閉会となった。この後、同じ会場で元鹿児島大学副学長の萬田正治鹿児島大学農学部名誉教授による「唱歌『故郷』に想う」の講演が行われた。懇親会は、午後5時半から百余名が参加して総会一連の行事を終えた。

平成21年度一般会計決算 (単位:円)

1.収入の部		区 分	予算額	決算額	増減額	備 考
前年度繰越			513,979	513,979	0	
会費			4,680,000	2,290,000	△2,390,000	新入生 2,070,000 卒業生 0 既卒者 220,000
雑収入				4,779	4,779	預金利息
合 計			5,193,979	2,808,758	△2,385,221	
2.支出の部		区 分	予算額	決算額	増減額	備 考
事務経費			370,000	460,221	90,221	備品、賃金、通信費、文具等
会議費			370,000	487,880	117,880	役員会、理事会、総会、支部世話役会、同窓会連合会分担金
事業費			1,850,000	738,084	△1,111,916	会報作成費および発送費、鹿児島島の教育を語る会経費、人材活用事業補助、大学祭学部企画補助
会計区分変更			1,120,043	1,120,043	0	記念事業積立金、国際交流基金
予備費			1,483,936	0	△1,483,936	
合 計			5,193,979	2,806,228	△2,387,751	
次年度繰越額					2,530	

平成21年度特別会計決算 (単位:円)

1.収入の部		区 分	予算額	決算額	増減額
前年度繰越			11,000,000	11,000,000	0
平成21年度積立金				1,000,000	1,000,000
合 計			11,000,000	12,000,000	1,000,000
2.支出の部		区 分	予算額	決算額	増減額
記念事業積立金			11,000,000	0	△11,000,000
合 計			11,000,000	0	△11,000,000
次年度繰越額				12,000,000	

1.収入の部		区 分	予算額	決算額	増減額
前年度繰越			2,640,396	2,640,396	0
合 計			2,640,396	2,640,396	0
2.支出の部		区 分	予算額	決算額	増減額
大会開催準備基金			2,640,396	0	△2,640,396
合 計			2,640,396	0	△2,640,396
次年度繰越額				2,640,396	

1.収入の部		区 分	予算額	決算額	増減額
前年度繰越			379,957	379,957	0
一般会計からの組み替え			120,043	120,043	0
合 計			500,000	500,000	0
2.支出の部		区 分	予算額	決算額	増減額
西ジョージア大学への派遣留学生経費補助ほか			500,000	369,334	△130,666
合 計			500,000	369,334	△130,666
次年度繰越額				130,666	

〈講演〉 唱歌「故郷」に想う

講師 鹿児島大学農学部名誉教授 萬田正治 先生
元鹿児島大学副学長

本年度は総会の後、約百余名の会員が出席した中、「唱歌『故郷』に想う」の演題のもと、元鹿児島大学副学長、現同大学名誉教授の萬田正治先生を講師にお迎えして同窓会発足以来、初めての講演会を開催しました。



先生は、鹿児島大学農学部教授を退職後、霧島市溝辺町竹子で農業を始めながら、「全国合鴨水稲会世話人」、「全国山羊ネットワーク世話人」、「竹子農塾主宰」など務めておられます。

高校時代から農への想いは深く、「豊かな農家と農村」を理念に持ち、鹿児島大学に入学後から終始一貫、初心を貫き、研究と実践を積み重ねてこられました。

最終的には「唱歌『故郷』の世界」の農村社会の景観をもう一度取り戻したくて、現在も広く活動しておられます。講演の内容は次の通りでした。

私が唱歌『故郷』の歌詞に最も惹かれたのは次のようなことからです。
・一番 農村の姿(自然)
・二番 人への想い(自然と人が一体)
・三番 ふるさとに帰りたい
東北大学院時代はこの歌を必ず歌わされ、そして歌詞

ふるさと

を覚えてよく歌いました。しかし、鹿児島大学に戻ってからは歌わなくなりました。農村の自然環境破壊、農村社会の破壊の危機に腹立たしく、むなしくなってきたからです。農村は緑が多く、豊かな自然環境がいつばいなどとうたい文句で「グリーンツーリズム」などが流行っていますが、緑色の美しさはあっても、そこに住む生き物たちは減り、多様性は失われています。ごまかされているのです。

【自然環境の汚染と破壊】
日本の農業は衰退の一途をたどり、自然環境を破壊する農業になってしまいました。その原因と実態は次のようなことが挙げられます。
一 農薬、除草剤の多投

日本は世界一の農薬使用国です。中国だけの問題ではありません。農薬散布により、人の肌を害をもちます。それでも周囲に何の断りもなく散布しています。「人も病気になるたら薬を飲むではないか」と質問を受けることがあります。問題の本質が違ふのです。人の薬は他に迷惑を掛けません。農薬は他に多大な害を及ぼします。水に溶けて川や池、海に流れ、環境やほかのものに影響を与えます。動物プランクトンのミジンコなどは農薬で殺され、生

態系を壊しています。フナ、ドジョウ、ゲンゴロウなど田んぼの生き物が姿を消してしまいました。
二 化学肥料の多投
化学肥料の消費量は日本は世界一です。化学肥料がなぜ悪いのか。それは土と水を汚染し、土を殺し、多様な生物を死滅させます。地力の低下と地下水汚染につながります。
三 家畜の糞尿処理
流すところがなく処理に困った糞尿は、地下水汚染や河川の汚染など環境問題にもなっています。

四 農業資材の廃棄処分
マルチ農法により廃棄される塩化ビニールの焼却処分によるダイオキシン発生は環境問題をもたらしています。
五 農地の基盤整備
昔の水路が人工水路に変わり、生き物たちが住むことができず、激減の一途をたどっています。

【農村社会の荒廃】
戦後の日本の社会は、過疎の農村と過密都市の二極分化を起し、現在も進んでいます。農村では、若者がいなくなり、高年齢化が進み、人口が減少しており、中山間地域では小学校や集落が消えていきつつあります。

一人暮らしのお年寄りは、本当は子供や孫と暮らしたい。子供たちの幸せを願うが故に、農村で寂しく我慢して暮らしているのです。この日本をつくってきたお年寄りに対して「ありがとう」の精神がほしい。しかし、お年寄りに存在感がない、役割がない、果てはお年寄りいじめが起きています。
【さわやかな農への追い風】
今、国内農業を見直す機運が国民の中に高まっています。馬鹿にされた有機農業が市民権を得てきました。食の安心・安全への意識も高揚してきました。農の喜びと誇りを持ち、お年寄りや小さな農家が元気づいてきつつあります。

【農村社会の荒廃】
戦後の日本の社会は、過疎の農村と過密都市の二極分化を起し、現在も進んでいます。農村では、若者がいなくなり、高年齢化が進み、人口が減少しており、中山間地域では小学校や集落が消えていきつつあります。

【さわやかな農への追い風】
今、国内農業を見直す機運が国民の中に高まっています。馬鹿にされた有機農業が市民権を得てきました。食の安心・安全への意識も高揚してきました。農の喜びと誇りを持ち、お年寄りや小さな農家が元気づいてきつつあります。

【教育は鍛えるもの】
人を育てることは、真剣勝負、命がけの仕事であると思います。今の教育には人間教育が欠けています。まっとうな人間(自分のことだけでなく、周りのことを考え、他人の

ことも考え、地域のことも考えていくことのできる人)を育てる必要があります。つまり、社会は自分一人では生きていけないということ、皆と協力し合って、持ちつ持たれつ生きているということがしつかりと分かる子供たちを、人間を育てることが教育の基本ではないかと思えます。

講演会が終わった後、出席した会員の皆さまから「すばらしい講演だった。かねてから環境問題や食の安全などに関心をもっているからこそ本日の講演の内容が自分のこととして受け止めることができた」と大好評でした。本日、出席の人はほとんどが団塊世代以上の方々です。幼少期に過ぎた山、川、海などまさに正真正銘の汚染されていらない豊かな自然で過ごした思い出がよみがえり、本日の講演に感銘を受けられたのではないかと思います。

先生の「オリンピックでさえ4年に1回の開催があるというのにこの会がこれまで一度もなかったことは不思議。次の懇親会を願いながら、元気良く万歳三唱をしましょう」という前置きが印象的でした。

最後に顧問の中山右尚先生のあいさつで閉会しました。出席者は晴れやかな顔で名残惜しそうに会場を後にし、中には会場を出てからも談笑している方もおられました。

先生が最後に話された内容は、教育学部同窓会員として身につまされる示唆に富んだお話でした。



本同窓会も13回目を迎えました。これまで懇親会

和やかな雰囲気の中、絆を深める 懇親会を開催

懇親会を開催

本同窓会も13回目を迎えました。これまで懇親会

ました。これまで懇親会

ました。これまで懇親会

【さわやかな農への追い風】
今、国内農業を見直す機運が国民の中に高まっています。馬鹿にされた有機農業が市民権を得てきました。食の安心・安全への意識も高揚してきました。農の喜びと誇りを持ち、お年寄りや小さな農家が元気づいてきつつあります。

【教育は鍛えるもの】
人を育てることは、真剣勝負、命がけの仕事であると思います。今の教育には人間教育が欠けています。まっとうな人間(自分のことだけでなく、周りのことを考え、他人の

ことも考え、地域のことも考えていくことのできる人)を育てる必要があります。つまり、社会は自分一人では生きていけないということ、皆と協力し合って、持ちつ持たれつ生きているということがしつかりと分かる子供たちを、人間を育てることが教育の基本ではないかと思えます。

講演会が終わった後、出席した会員の皆さまから「すばらしい講演だった。かねてから環境問題や食の安全などに関心をもっているからこそ本日の講演の内容が自分のこととして受け止めることができた」と大好評でした。本日、出席の人はほとんどが団塊世代以上の方々です。幼少期に過ぎた山、川、海などまさに正真正銘の汚染されていらない豊かな自然で過ごした思い出がよみがえり、本日の講演に感銘を受けられたのではないかと思います。

先生の「オリンピックでさえ4年に1回の開催があるというのにこの会がこれまで一度もなかったことは不思議。次の懇親会を願いながら、元気良く万歳三唱をしましょう」という前置きが印象的でした。

最後に顧問の中山右尚先生のあいさつで閉会しました。出席者は晴れやかな顔で名残惜しそうに会場を後にし、中には会場を出てからも談笑している方もおられました。

先生が最後に話された内容は、教育学部同窓会員として身につまされる示唆に富んだお話でした。

先生が最後に話された内容は、教育学部同窓会員として身につまされる示唆に富んだお話でした。

年間計画および実施状況について



教育学部22年度 就職委員会

就職委員会委員長 新名主 健一

平成22年度教採活動対策

4月	13日	進路説明会
	15日	川崎市、東京都教採試験説明会
	27日	教採模擬面接 1回目
5月	11日	講演「鹿児島県が求める教員像」(県教委)
	19日	教採模擬面接 2回目
6月	8日	講演「面接等への対策(教育学部 仮屋園先生)」
	15日	講演「試験1カ月前にすべきこと、できること」(卒業生の現職教員2人)
	29日	教採模擬面接 3回目
7月	8日	附属小 朝の会参観
8月	上旬	鹿児島県2次対策資料配付
	20日	講演「採用試験合格を目指す学生に」 附属小 東俊一 副校長 附属特別支援学校 古賀政文副校長
	27日	講演「教職への誘い」 純心短大 有馬義秀教授
11月	4日	教採プログラム 第1回「オリエンテーション」
	30日	教採プログラム 第2回「教職教養(教育法規・指導要領)」
12月	7日	教採プログラム 第3回「教職教養(教育心理)」
	14日	教採プログラム 第4回「教職教養(特別支援教育)」
	16日	講演「教職への誘い」
1月	11日	教採プログラム 第5回「教職教養(教育原理・教育事情)」
	18日	教採プログラム 第6回「教職教養(英語的分野)」
	19日	教採プログラム 第7回「教職教養(国語的分野)」
	25日	教採プログラム 第8回「教職教養(数学的分野)」
	26日	教採プログラム 第9回「教職教養(社会的分野)」
	31日	教採プログラム 第10回「県教委より」
	中旬	合格者体験談を聞く会
2月	1日	教採プログラム 第11回「教職教養(理科的分野)」

就職難の時代になってい
る。
全学での共通認識の「就職
支援は教育の一環である」とい
うことを前提に就職対策を立
てている。平成22年度は左表の
ような年間計画を作成した。
8月までの対策活動は終了
した。これまでの実施状況を
振り返ってみると、学生の参
加が極めて少ないという問題
点が挙げられる。
原因はいろいろ考えられる
が、就職に関して学生の意識
が低いことが一番のようだ。
何が何でも就職するという強
い決意を持った学生は自分の
希望する進路に進んでいる。
一方、学生がどのような就
職支援を望んでいるかの把握
をしながら適切な対策を練っ
ていかなければならないと考
えている。

支援を行っており、教職支援
室では、教職経験のあるベテ
ランの職員が学生個々の相談
に応じ、模擬面接・模擬授業
の指導を行っている。
それぞれの学科では、就職
委員会を中心に進路確認シ
ートを基にした就職支援を行
っており、一昔前とは異なり、か
なり細かく丁寧な就職対策が
行われていると言っている。過
言ではない。要は学生がこのよ
うなシステムを自らの進路実現
のために大いに活用すること
が大事である。

公務員は県警、市役所(鹿
児島、鹿屋)、宮崎県等13人。
企業は鹿児島銀行、トヨタ車
体、郵政簡保、南国殖産等23
人が内定または合格している
(10月17日現在)。
今年、内定していた企業を
辞退した学生にかかわるトラ
ブルがあった。企業側は直接
出向いて辞退届を提出し、謝
罪をすべきであるというの
だ。何とか収まったが社会の
変化についていく支援のあり
方を考えさせられた。
教育学部生は知的レベルで
は合格することは当然である
が、合格後の面接で涙をのむ
例が多い。
進路への堅い決意と実行と
次のことができれば万全であ
ろう。

ともて厳しい状況である。
ただ、受験者が増えているこ
とは喜ばしく、「学校体験実
習」や「教職基礎研究」が功
を奏しているであろう。

心からの謝罪の言葉が言え
ること
・心からの感謝の言葉が言え
ること
・返事ができること
・あいさつができること
学部でも家庭でも指導をお
願いする次第である。

平成22年度一般会計予算 (単位:円)

1. 収入の部

区分	予算額	備考
前年度繰越	2,530	会費内訳
会費	4,010,000	22年度新入生 321名(大学院生25人含む)
		21年度卒業生(見込) 50名
		既卒者(見込) 30名
雑収入	4,000	計 401名 401名×10,000円=4,010,000円
合計	4,016,530	預金利息

2. 支出の部

区分	予算額	備考
事務経費	515,000	通信費60千円、賃金300千円、文具等60千円、消耗品等60千円、同窓会室借料35千円
会議費	580,000	理事会、総会経費等380千円、同窓会連合会関係費等200千円
事業費	1,820,000	会報作成費500千円、鹿児島県の教育を語る会100千円、教育を語る会報告集@500×500部 250千円、人材活用事業費360千円、支部、学年・教科同窓会補助360千円、大学祭共催企画100千円、交通費等100千円、その他50千円
会計区分変更	869,334	特別会計へ組み替え
予備費	232,196	記念事業積立金500,000円、国際交流基金369,334円※国際交流基金は昨年度支出額充当分
計	4,016,530	

(2) 特別会計
(1) 記念事業積立金 (収入の部)

区分	予算額
前年度繰越	12,000,000
H22 積み立て分	500,000
合計	12,500,000

(支出の部)

区分	予算額
記念事業積立金	12,500,000
計	12,500,000

(2) 大会開催準備基金 (収入の部)

区分	予算額
前年度繰越	2,640,396
合計	2,640,396

(支出の部)

区分	予算額
総会開催準備基金	2,640,396
計	2,640,396

(3) 国際交流基金(予) (収入の部)

区分	予算額
前年度繰越	130,666
新規積立	369,334
合計	500,000

(支出の部)

区分	予算額
国際交流基金	500,000
計	500,000

◇平成22年度事業計画

4月1日	新入生教育学部企画オリエンテーション
4月10日	鹿児島大学同窓会連合会総会・懇親会
4月14日	同窓会会長・副会長・教育学部長懇談会
4月29日	教育学部卒業生上之段祐佳ほ
4月30日	かピアノリサイタル後援
5月28日	「鹿児島県の教育を語る会」発表文集第2集発行
5月28日	同窓会主催「第9回鹿児島県の教育を語る会」
6月26日 14:00	第1回同窓会役員会
6月26日 14:00	同窓会理事会
8月7日 14:00	同窓会総会・講演会・懇親会
9月	第2回同窓会役員会
10月	第2回支部世話役会
11月	大学祭学部企画事業への参画
11月26日	同窓会主催「第9回鹿児島県の教育を語る会」
11月1日	同窓会会報第12号発行
11月1日	同窓会会報第12号を、各同窓会員に発送
2月	昭和三十九年、49年卒業生への案内
3月	平成23年度新入生への案内

人材活用(派遣)事業

同窓会が実施するこの事業は、同窓生が独自の発想で支部世話役や有志や個人で行う事業である。各自が気軽に児童、生徒の指導や地域の教育振興のために実施してください。

実施申請書には、①事業名・主催者②趣旨・内容③日時④場所⑤対象⑥講師等の申請書を提出します。なお、1事業に対して5000円を支払います。詳細については、事務局にご連絡ください。

子供たちの心をつなぐ

—川柳教室—

川崎睦雄(円柳)

退職後、池田芳宏(芳柳)さんと私、川崎睦雄(円柳)は鹿児島県川柳同好会に加入し、還暦の手習いとなった。会長の橋本博臣先生や先輩に教えを請いながら各種大会に参加できた。

平成18年に鹿児島県川柳同好会が主催するジュニア川柳の普及のための講師として派遣されるようになった。

現在まで財部南小、坂元小、伊敷中の川柳教室に毎年講師として招かれている。私たちは2人で1人前を自認しながら協力して役割を果たしてきた。川柳教室では、まず「川柳を楽しもう」と学習課題を設定し、初心者への基礎を説明する。次に句を作成させ、鑑賞まで進める。



伊敷中の川柳教室に毎年講師として招かれている。池田芳宏(芳柳)さんと私、川崎睦雄(円柳)は鹿児島県川柳同好会に加入し、還暦の手習いとなった。

同窓会学年代表世話役人数一覽

卒業学年	現人数(人)	補充人数(人以上)
S26	1	4
27	2	3
28	2	3
29	1	4
30	3	2
31	4	1
32	2	3
33	1	4
34	10	0
35	4	1
36	3	2
37	10	0
38	3	2
39	5	0
40	3	2
41	7	0
42	2	3
43	1	4

44	2	3
45	2	3
46	1	4
47	1	4
48	2	3
49	1	4
50	2	3
51	2	3
52	2	3
53	3	2
54	2	3
55	1	4
56	1	4
57	1	4
58	2	3
59	2	3
60	1	4
61	2	3
62	1	4
63	1	4
H1	1	4

2	2	3
3	1	4
4	2	3
5	2	3
6	2	3
7	1	4
8	2	3
9	2	3
10	2	3
11	1	4
12	1	4
13	0	5
14	1	4
15	2	3
16	2	3
17	2	3
18	1	4
19	1	4
20	0	5
21	0	5
22	0	5
合計	124	188

うるわしき古希記念同窓会

昭和37年度卒業生「三七会」

教育学部昭和37年卒業生(三七会)による記念同窓会は、①人生70年の節目を三七会員各自の今後へ向けて意義あらしめるようにする。②記念コンサートを実施し、①及び祝賀に資する③総会で教育学部同窓会の「会則」「会報」を配布および終身会費未納者への納入を呼び掛け、学部同窓会員としての意識の拡充を図る。

来たる11月13日(土)に17時30分から記念コンサート。18時から総会・懇親会を開く。場所はホテル満秀。会員は

鹿児島島の教育を語る会

11月26日(金)

第9回鹿児島島の教育を語る会は、来たる11月26日(金)、学部101号講義室で午後4時から行います。

鹿大創立60周年記念式典が行われた



鹿児島大学正門

鹿児島大学では、昨年11月24日に創立60周年記念式典が開かれました。

式典では、吉田浩己学長があいさつ。鹿児島大学の源流や創立から法人化後に至るまでの歩み、第2期中期目標に掲げた「進取の気風」あふれる総合大学に向けた取り組み等への抱負について述べた後、伊藤祐一郎鹿

児島県知事など、来賓の祝辞を受けました。

60周年記念事業の一環として中央図書館1階に設置された「鹿児島大学歴史展示室」のオープニングセレモニーがありました。

同室は、本学の源流である藩学「造士館」(1773年創立)および医学館(1774年創立)から、現在の鹿児島大学前身である第七高等学校造士館や鹿児島高等農林学校などを含めた236年の歴史を紹介する展示室となっており、社会に開かれた大学として県民の皆さまにも利用されていくこととなるでしょう。

お知らせとお願い

- ①支部・学年・教科同窓会実施運営補助として、1回5,000円を支払います。同窓会事務局へ申し込んでください。
- ②学年代表世話役を各学年とも、上記一覧表で確認して学年代表5名以上選出してください。代表決定次第、同窓会事務局へ連絡してください。

☎ 099-2285-7718

編集後記

▼例年にならない猛暑の夏が去り、さわやかな秋日和となりました。会報12号を発行しました▼国政においては「円高」「高校・大学生の就職難」「尖閣列島問題」など内外ともに難問が山積しています▼本年度は総会の後、初めての試みとして鹿児島大学名誉教授萬田正治先生の「唱歌『故郷』に想う」の講演を聴くことにしました▼先生の実践を通しての講演は、私どもに深い感銘を与えられました。先生の近著の「生活農業の時代」(南方新書)をご一読ください▼今回も人材活用(派遣)事業の実践例「川柳教室」を掲載

新役員

出水支部世話役 竹宮鐵郎

学年代表世話役

31年卒 福迫徹

34年卒 石塚勝郎、鹿島洋記、小島孝夫、徳永俊吉、長野純二、原田浩幸

37年卒 池田穂、市齒裕、内村涼恵、大迫健一郎、久保矢、佐賀義彦、新村立憲、須賀毅

しました。同窓会のユニークな活動をそれぞれの場で実施してください▼学部内から就職委員会委員長であられる教授、新名主健一先生に、学生に対する教職、一般の就職対策活動計画や実施状況等について玉稿をいただきました▼同窓会では今後、学部後援会と提携して就職支援対策を立てる必要があると思われまます▼今回も同窓会の同窓会の実施要項をいただきました。学年はもとより教科、地域同窓会の様子を事務局にお知らせください▼鹿児島大学同窓会連合会から、県外の同窓会支部の結成を求められています県外在任の有志がおられますらご紹介してください(池)